

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」に対する意見

■NPO 法人水のフォーラムは「流域の水ネットワーク」の保全活動をしています。

流域の水ネットワークが健やかになることを願って、水の勉強をしながらの情報発信、「見沼たんぼ」での実践活動、都市を持続可能にする農地・森林について学ぶ「さいたま・水とみどりのアカデミー」を開講しています。

今日は、これらの活動を通じて考えたことを申し上げます。

■埼玉は県土の4分の1が沖積低地です。

日本一広い関東平野、その中心をなす埼玉平野は河口から栃木県の藤岡町辺りまで 5000 分の 1 の平坦な沖積低地。沖積低地は地形区分で最も低い土地。しかもたかだか 5、6 千年年の歴史でできた地層ですから、中はスポンジです。

この沖積低地が国土に占める割合は 1 割ですが、埼玉県は県土の約 4 割も占めています。そこに荒川や利根川から水を引く用水路がいく筋も伸び、たんぼに入り、たんぼからの落とし水がまた、川になり(埼玉県の河川の水源はたんぼ)、それを下流で堰上げし、下流の田を潤し、と繰り返しながら海へ注ぐ。この埼玉の「水ネットワーク」の図が『水の FORUM』Vol.11 の P2～3 の図です。

■水ネットワークが生きものたちを育てている。

河川—用水路—たんぼ—河川—用水路—たんぼ—河川……—海、とつながる埼玉の水ネットワークが大地の隅々にまで行き渡り、大地を潤し、生きものたちを育てています。農業用水は稲作のための水ですが、米作りに使うのは約 4 割、残り 6 割は漏れたり、たんぼからの落とし水となって地下水や河川の水になります。

春、水が来ると、木々は根っこを伸ばして水を吸い上げます。すると地下水位が上がり、小さな生き物たちも生命の水を得てぐんぐん生長します。そうやって二千年、日本固有の二次的自然を豊かに育ててきました。

たんぼが残れば、埼玉の水ネットワークが残り、洪水の遊水機能にも、ヒートアイランド現象緩和にも貢献してくれます。水と緑と生きもののはらは都市住民の癒しの場にもなります。

■水ネットワークが豊かということは洪水に脆弱ということ。

しかし、沖積低地は河川の氾濫原と呼ばれるように、元々は利根川や荒川が好き勝手に乱流していた河川の間です。埼玉の水ネットワークを支える水みちは、いずれも利根川・荒川の旧流路。いざとなれば濁流の道になります。

江戸時代は上流に洪水調節機能がありませんから、大雨が降れば利根川・荒川が破堤してそのまま江戸に至るまで水浸し。田も畑も人の住まいも泥水に浸かって、住民同士で争い、しばしば血を見る争いになりました。

それをなんとか解消したのが、連続堤防です。でも連続堤防はとりあえず水争いを解消しましたが、堤防は長くなればなるほど安全度は低下します。それこそスーパー堤防でも完成

しない限り破堤の危険は付きまとう。だからそれを補完するものが必要で、その一つが上流のダム。私たちが取り組む水ネットワークの保全も、利根川が洪水に脆弱なままなら、将来に濁流の道を残すことになります。その意味でも上流の洪水制御機能、ダムが必要と考えています。

■利根川水系、センターにも洪水調節機能がほしい。

そこで利根川上流のダムを見てみると、基準点の八斗島をホームベースとすると、ライトとサードには調節機能がありますが、センターに守備なし、という状況です。

八ッ場ダムの計画はカスリン台風時の洪水流量を目安にしていますが、雨はいつも同じ所に降るわけではない。カスリン台風と同等、あるいはそれ以上だった明治43年洪水では、中条堤が切れ、埼玉東部から東京まで、まさに沖積低地がそのまま海原になりました。その時の大雨は八ッ場ダム建設予定地の吾妻川流域です。

■残された農業用水は生きものたちに残しておいてほしい。

利水の点からは、埼玉の農業用水はすでに二百数十万人分の都市用水に転用しました。今、さいたま市で飲んでいる水の多くは見沼代用水だった水です。残された水は生きものたちに残しておいてほしい。人間の水は人間社会で用意すべきではないでしょうか。

確かに、大ダム建設では水源地の環境に負荷を与えます。だからこそ、水源地の自然再生や住民の生活再建、さらには山の間伐も含めて、精一杯の配慮はすべきですし、実際、その対応は成されているはずで。

ダムの代替案に地下水や農業用水があげられていますが、地下水は永い時間をかけて作られる地球規模の水。農業用水はすでに都市に転用済み。残された用水は大地のために残してほしい。これ以上、地下水も農業用水も奪われたら、流域は乾いた大地になってしまいます。

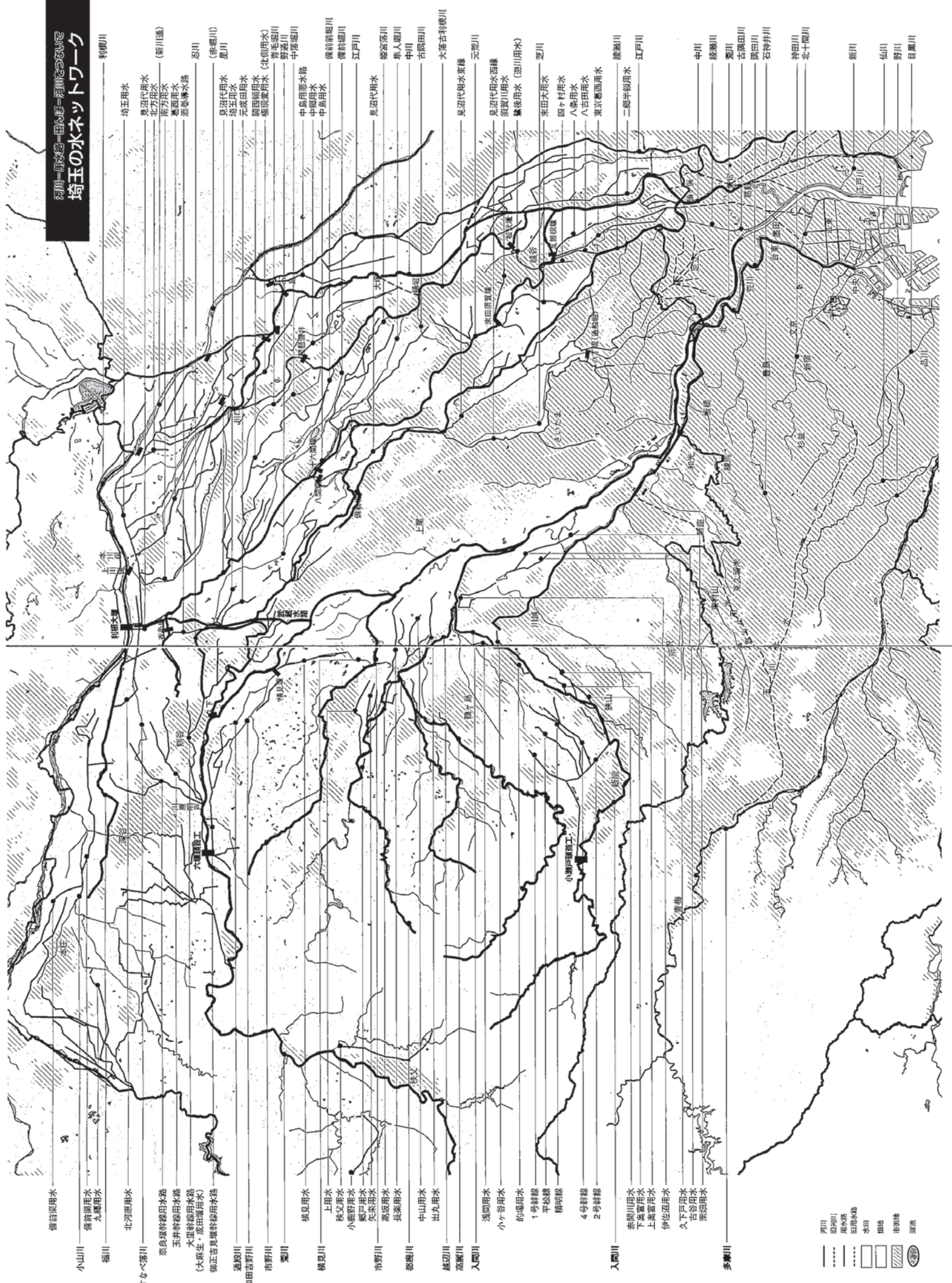
■まとめ—もっと流域全体を視野に入れてほしい。

最後に、下流域の都合でダムが必要としても上流の理解と協力がなければ実現しません。過去の水争いでは明治以降も軍隊が出たり、警官隊が出たり、それこそ流血の騒ぎになりました。でも八ッ場ダムは機動隊が入ることなく、代わりに時間がかかりましたが、水源地の方々の理解をいただくことができました。やっところまで来たんです。それをなぜ止めなければならないのか、理解に苦しみます。

報道も、いつも水源地の話で終始していますが、八ッ場ダム建設のためには私たち流域住民は永年水道料金を入れてきているんです。水源地に架かる橋はダムを造らせていただくためのお礼でしょう。橋だけ造ってどうするつもりですか。

上流域の過疎化にしる、山の鬱々林の解消にしる、ダム建設が行われなければ解決したとは思えません。上下流で協力し、補完し合うことは悪い話ではないと思います。上下流の相互協力で流域の自然を保全し、社会を健全に維持するという総合的な視点をもっていたきたい。この2年の空白に深い憤りを感じますが、再検証でその有効性が再確認された以上、一刻も早い建設再開を望みます。

河川一帯が途一帯に水を運ぶことで 埼玉の水ネットワーク



菅沼用水
 小山川
 福川
 ささなべ藩川
 赤良と幹線用水路
 玉井幹線用水路
 水田幹線用水路
 (大森生・鹿沼用水)
 御正堂と幹線用水路
 横見用水
 上用水
 秋父用水
 小瀬野用水
 栗戸用水
 矢来用水
 高坂用水
 長瀬用水
 中山用水
 出丸用水
 越前用水
 小ヶ谷用水
 的場用水
 1号幹線
 平松線
 積形線
 4号幹線
 2号幹線
 赤間川用水
 下栗用水
 上栗用水
 伊佐用水
 久下用水
 台合用水
 栗岡用水
 利根川
 埼玉用水
 見沼代用水
 北方用水
 南方用水
 越前用水
 尾島用水路
 見沼代用水
 埼玉用水
 元成田用水
 崎西用水
 磯貝用水
 (北朝用水)
 野毛用水
 野邊川
 中高用水
 中島用水路
 中島用水
 中島用水
 佛前用水
 佛前用水
 江戸川
 坂高用水
 集人用水
 中川
 古岡用水
 大宮利根川
 見沼代用水東線
 元室川
 見沼代用水西線
 須賀川用水
 篠原用水
 芝川
 米田用水
 四ヶ村用水
 八条用水
 八田用水
 東京島用水
 二郷半用水
 渡瀬川
 江戸川
 中川
 綾瀬川
 妻川
 古岡用水
 飯田川
 石神井川
 神田川
 北十間川
 新川
 仙川
 野川
 目黒川

- 河川
- 田圃川
- 用水路
- 田圃用水路
- 水田
- 畑地
- 田圃地
- 田圃